



国臨協関信

H.P: <http://www.alpha-net.ne.jp/users2/kansinko/>

平成20年 1 月

事 務 局 〒162-0052 東京都新宿区戸山1-21-1
 国立国際医療センター臨床検査部内
 発 行 者 三浦隆雄
 編集委員 松林 守・深澤文子・小松久人
 竹田信邦
 印 刷 所 東洋印刷株式会社
 ☎ 03-3352-7443

謹賀新年

平成二〇年 元旦

国立病院臨床検査技師協会関信支部
 支部長 三浦隆雄・理事一同



新年の挨拶

国立病院臨床検査技師協会

関東信越支部

支部長 三浦隆雄

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、年のはじめは初心に返り仕事や家庭や趣味や将来のためにと、心も新たにさまざまな決意をもって新年をお迎えのことと拝察いたします。

旧年中は、支部活動にご理解とご支援を賜りまして誠にありがとうございました。また、活動の状況や成果に応じてアドバイスや応援の声を掛けていただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

新しい年も会員の皆様のご理解とご支援を得ながら、これまでの支部事業をさらに発展させるような会務に心がけてまいります。今年も課題は「臨床検査部門の質的向上と活性化」であります。これには、学術と倫理の向上、人材育成、精度保証、医療安全、チーム医療、業務改善、等々、我々に今求められていることの全てが凝縮されております。各医療職種には基礎的スキル以外に高いスキルが求められています。時代が大きく変革するなかで、過去や日常の馴れに埋没することなく、それぞれの立場で使命感をもって行動しなければならない時勢であります。義務感から使命感であります。

現実的にはそれぞれに厳しい職場環境や諸々の事情があるものと思われますが、希望のみえない働き方はしたくないものです。余計なことはあまり考えずに"前向きに仕事を楽しみながら自己を研鑽する"ことが大切だと思います。やるべき何かをみつけて突っ走ってみたいものです。三日坊主の繰り返しになることが多いのですが、はやりの偽装表示、賞味期限切れの検査技師と言われたいように、一年前とどれだけ変わるか、静かに気合を入れ直しているところであります。

さて、国立病院機構本部に臨床検査専門職が発令されました。これは機構施設臨床検査部門の今後に大きな期待が込められていることの表れと考えます。先導役として新たな重責を担うことになられた奥田臨床検査専門職には、国臨協の核としてますますのご活躍に期待申し上げます。また、諸種の課題に対しては国臨協の全会をあげて結束連携していかなければなりません。関信支部はその中心的役割を果たせるよう役員一同誠心努力いたしますので、皆様のお力添えをお願い申し上げます。

終わりに、会員の皆様におかれましては、心身ともに健康第一で公私共に実り多き一年となりますことをお祈り申し上げます。年頭の挨拶といたします。

新年の挨拶



独立行政法人国立病院機構
関東信越ブロック事務所医療課

臨床検査専門職

奥 田 勲

新年あけましておめでとうございます。国臨協関信支部会員の皆様には健やかに新春をお迎えのこととお慶びを申し上げます。また、現在単身赴任や長距離通勤を余儀なくされている方々をはじめ、日頃よりさまざまお力添えいただいている各施設の検査技師長や検査科（部）スタッフの皆様、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

新年のご挨拶に先立ち、関信支部会員の皆様に一点ご報告をさせていただきます。

私こと、現職の関東信越ブロック臨床検査専門職併任に加えて、昨年（平成19年）12月1日付で国立病院機構本部医療部医療課臨床検査専門職の併任辞令をうけました。身に余る重責であり、私自身大いなる戸惑いのなかで新年を迎えることとなりましたが、拝命したからには、与えられた役割をしっかりと自覚し、臨床検査部門の将来（あるべき姿）を見据えながら、臨床検査および臨床検査技師の発展のため誠心誠意微力を尽くしたいと考えております。今後とも、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

さて、国立病院機構は次期中期計画にむけて、現在さまざま改革に取り組んでいるところです。私たち機構職員の身分も、平成21年度からは非公務員化の方向で検討されているのはご承知のとおりです。また、国立高度専門医療センター（ナショナルセンター）についても、翌平成22年度より独立行政法人化が決定されています。

いずれにしても、国立医療の在り方が大きく問われるなか、新時代に向けて、私たち（旧・現）国立医療機関に勤務する職員にさらなる意識改革が求められるのは当然のことと思われる。

私たち臨床検査技師にとっても、そんな激しい環境変化のなか、この1年間関信支部をはじめ各協議会の皆様と一致協力しながら、さまざま取り組んでまいりました。

その主な内容について、簡単に振り返りますと・・・

1. スキルアップ取り組み（関信ブロック主催研修等）

- 1) 腹部超音波1ヶ月研修：昨年度に引き続き国立がんセンター中央病院にて実施（17施設19名参加）
今後は、循環器超音波研修についても検討予定
- 2) 臨床検査技師実習実技研修：昨年度の輸血実技研修に引き続き、今年度は機構本部講堂にて「感染管理研修」（平成20年2月1日・2日の2日間）を開催予定
- 3) その他：関信支部主催各種認定試験対策セミナーが精力的に開催され、資格取得に成果をあげている

2. 人材育成研修（関信ブロック主催）

- 1) コメディカル6職種合同新採用者研修：機構本部講

堂で開催（平成19年5月30日・31日の2日間）

- 2) コメディカル6職種合同副職場長マネジメント研修：機構本部講堂で開催（平成19年10月3日・4日の2日間）
 - 3) 新任職場長等研修：機構本部講堂で開催（平成19年10月10日・11日・12日の3日間）
- ### 3. 各協議会との協働連携

- 1) 関信支部との共催で、①「主任技師リーダーシップ研修」を機構本部講堂（平成19年6月9日）で、②「新臨床検査管理統計・リスクマネジメント研修」を機構本部講堂で開催（平成19年10月13日）
- 2) 山梨地区勉強会への参加（平成19年8月24日）
- 3) 東京・埼玉・山梨技師長会主催で「地区会員向け研修会」を成育医療Cで開催（平成19年10月27日）
- 4) 技師長協議会との共催で「関信地区技師長・副技師長合同研修会」を精神・神経C武蔵病院で開催（平成19年12月1日）
- 5) その他、関信支部理事会へのオブザーバー参加や、関信支部ニュースへのコラム執筆

4. 検査部門からの医療情報発信

流行性ウイルス感染情報に引き続き、関信ブロック医療課の事業として、検査部門と薬剤部門（関信ブロック内34病院）の協働による「新たな耐性菌情報」提供開始（平成20年1月からの開始に向けて準備中）

5. 臨床検査部門としての今後の取り組み課題

検査の質向上への取り組み、医療安全推進の取り組み、他部門との医療連携等に加えて、今後は、院内検査部門として、さらなる病院経営への参画姿勢が強く求められるものと思われる

6. その他

今年度も、各地区会・技師長会等へ数多く参加し、会員諸氏との相互交流（意見交換）を深めた

紙面の都合でこの程度にとどめますが、これからも皆様と一致協力し（意識を共有し）、臨床検査の未来のために頑張っていく所存です。是非とも、皆様の忌憚のないご意見や要望等をお聞かせ下さい。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

勤務日：水曜日以外 東京医療センター研究検査科
TEL：03(3411)0111

E-mail：iokuda@ntmc.hosp.go.jp

勤務日：毎週水曜日

- 1) 国立病院機構関東信越ブロック
統括部医療課
TEL：03(5712)3106
- 2) 国立病院機構本部
医療部医療課
TEL：03(5712)5074
E-mail：okuda-isao@nho.hosp.go.jp



茨城地区会会長……………堀 口 日出子

新年あけましておめでとうございます。茨城地区会を代表して関信支部会員の皆様に新春のご挨拶を申し上げます。

茨城地区会では昨年の一年間に、会員総数41名の内、8名が入れ替わり、3施設に5名の新人技師を迎えました。若いエネルギーにベテラン技師も感化され、モチベーションが上昇してきています。

『ハニカミ王子』と『どげんかせんといかん』、昨年の新語・流行語大賞です。東国原宮崎県知事の『どげんかせんといかん』は、まさに世相を反映している言葉ではないでしょうか。何もしないのでは何も変わりません。前向きに物事をとらえ、やれることは何でもやる。出来ないと思ったら勉強すればよいのです。この考え方・認識を変えるだけで大きく改革できるのではと思っています。

昨年は国立医療に勤務する医療人として、『医療法等の一部を改正する法律』、『改正感染症法』、『業績評価制度』、『再生プラン』等々、休む間もなく次々と新たな問題に対応することが求められた一年でした。

いつもこんな時、ふと思い出す大恩師の言葉があります。『人間は幾つになっても前を向いて生きている限り青春だよ。努力・努力・努力…。』

今後の臨床検査は力量を発揮でき、活躍の場が広い部門であると思っています。一人1人が、何ができるか、何を求められているか、真摯に見つめなおす時にきているのではないのでしょうか。その為にもいつまでも青春であり続けたいと思っています。

私の好きな言葉をご紹介します。『次の世代に夢を与える』臨床検査がそんな仕事になることを願っています。最後になりますが、今年一年が会員の皆様にとって幸多き年となりますことを祈念し、年頭のご挨拶といたします。

栃木地区会会長……………大 貫 經 一

新年明けましておめでとうございます。

関信支部会員の皆様におかれましては穏やかに新年を迎えることとお喜申し上げます。

栃木地区会は、栃木病院と宇都宮病院があり場所が近い関係上、活動がやりやすい環境にあります。会員30名で年間行事として、蕎麦打ち体験や牧場での牛の乳搾り・バター作り・バーベキュー等のレクリエーション、勉強会は超音波実技研修、医療安全・医療連携に関して両施設から現状報告会を企画しています。昨年11月29日には「他部門との

業務連携」と題して、ICTの現状報告会を行いました。その後、一足早い忘年会を行い懇親を深めています。

3月の総会時には「医療安全と他部門との業務連携」と題してNST、医療安全管理、輸血管理、医療機器管理等について両施設の現状を報告し合い情報交換していきたいと思います。

再生プラン、業績評価制度と厳しいことが続きますが、技師のスキルアップを図り、他部門と医療連携を行い検査科全体の質向上を実践していきましょう。技師のスキルアップに関して、両施設が近いこともあり栃木病院には超音波認定技師がいまないので、やる気のある技師が夜勤明けを利用して宇都宮病院の南雲生理検査主任より技術指導を受けて早1年になろうとしています。国立病院機構だけでなく、宇都宮近辺の施設間との技術交流を深めていきたいと思います。継続は力なり。(大貫栃木地区会会長は1/1付で国立精神・神経センター国府台病院へ異動となりました。)

群馬地区会会長……………原 和 子

あけましておめでとうございます。

国臨協関信支部の会員の皆様には佳き新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年、群馬地区会では3月の総会・研修会、10月の輸血講演会で会員の資質の向上を、懇親会で会員の交流をはかりました。それぞれ個性の異なる4施設ですが、地区会として今年も活発な活動をしていきたいと考えています。支部活動では支部学会、合同交流会、主任研修会、輸血研修会などに参加することができました。学会では西群馬病院が学会奨励賞を戴くことができました。大変光栄なことで、感謝しております。

今年は4月に診療報酬の改定が予定されています。検査部門の点数がどうなるのか、管理料、判断料はどう評価されるか、特に18年4月の改定で新たに設けられた「外来迅速検体検査加算」が「1点」から変更されるか、注目されるところです。業務改善も経営改善も診療報酬ぬきには考えることができないからです。昨年11月の国病学会のシンポジウムでは「検査科に少し、薄日がさしてきた」という発言もありましたが、現実にはDPCの導入など一層の合理化と省力化を求められています。今までは「検査室の生き残り」を目指してきましたが、これからは「施設の生き残り」が目標になりそうです。地域に根ざした選ばれる病院あるいは政策医療を行っている頼りになる病院になるために病院の一員として、検査技師が何をなすべきか、病院にどんな貢献ができるか、考え実践することが求められています。ひとりひとりが医療人としてレベルアップしましょう。

最後に関信支部役員並びに会員の皆様のご健康とご活躍を祈念して、新年の挨拶といたします。

千葉地区会会長…………… 名 賀 秀 己

新年あけましておめでとうございます。

関信支部会員の皆様におかれましては健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、不祥事の年といっても過言ではなかったでしょうか。"改ざん" "偽装" "不正" "着服" "収賄"等の悪いイメージの文字が、新聞、雑誌の紙面を賑わせていました。"プロ意識"が欠如し、プロとして当たり前のことを当たり前の様に実行することを忘れているようです。

我々の世界では、国立医療のあり方が大きく変革し、臨床検査技師のおかれている立場は厳しい状況下にあります。しかし、それを打破すべく、臨床検査部門として患者様、施設に貢献できるサービスを日々考え、成果を上げるべく、個々の検査技師がスキルアップし、検査部運営にも参画し、実践されていることと思います。

技術者として臨床検査技師業務を患者様・施設の為に、生活の糧として自身・家族の為になど、とらえ方も様々あると思いますが、「患者様のため」という目線にたつことが何よりも大事なことでないでしょうか。毎日の忙しい業務に追われても、忘れない様に心がけたいものです。

新年を迎えるにあたり、国家資格を取り、夢を持ち検査という仕事に就いたときの初心を思い出し、"プロ意識"を再認識してはどうでしょうか。

千葉地区会は関信支部と密なる連携をとりながら、会員の皆様の支えになるような運営を目指して行きたいと思っています。

最後になりましたが、関信支部役員並びに会員皆様のご多幸と益々のご活躍をお祈りいたします。

神奈川地区会会長…………… 太 田 雅 司

新年明けましておめでとうございます。関信支部会員の皆様におかれましては心新たに新春をお迎えのこととお慶びを申し上げます。

昨年は関信支部としての活動に目を見張るものがありました。先ず、取り上げるべきは関信支部学会と技師長協議会関東信越支部総会の同日開催でした。これも初めての試みで570余名と支部会員のほぼ7割を集めるという快挙でした。

つぎに「退職者を囲む合同交流会」が企画され開催されたことです。若手、中堅、ベテラン、OBが一同に集い和気藹々の交流会でした。このような楽しい会が、なお一層発展し定着してゆくものと確信しています。これらの会が大盛況のうちに終わられたのもひとえに関信支部役員ならびに技師長協議会役員そして専門職のご尽力の賜物と存じます。

さて、我われ神奈川地区会も皆様のご活躍を手本とし、また、今年度より「地区会活動助成金」なる制度も新設され、この趣旨を十分に汲み取り、今後の地区会活動に役立ててゆきたいと思っています。

現在、神奈川地区会役員は、平成20年3月1日（土）の総会に向けて準備を進めています。各理事には全体会議、主任会議のたび毎に総会出席をお願いするよう、また、私からも各技師長に機会ある毎に挨拶がわりに総会出席をお願いしています。施設の近況や会員一人一人の顔が分かるような親近感の持てる神奈川地区会にしたいと思っています。

今年も関信支部の一層の飛躍を祈念して新年の挨拶とさせていただきます。

新潟地区会会長…………… 山 田 清 春

新年明けましておめでとうございます。

関信支部会員の皆様には良き新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。

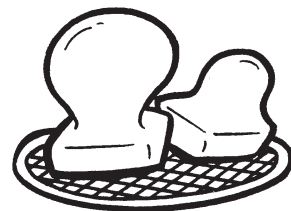
昨年も国内で様々な出来事「参議院与野党逆転によるねじれ国会」「相次ぐ食品偽装事件」「防衛装備疑惑」「郵政民営化」等多々ありましたが新潟地区にとって最大の出来事は何といっても7月16日に柏崎周辺を中心として襲った平成19年新潟中越沖地震ではないでしょうか。ガス・電気・水道などのライフラインがストップされ不自由な生活を余儀なくされた中、懸命に診察、治療等に当たられた被災地の医療関係者の方々本当にご苦労様でした。

また、皆様からの暖かい励ましとお見舞いのお言葉をいただき改めて御礼を申し上げます。

今年は平成20年、国立病院機構の中期目標の最終年度にあたり各施設の実績が評価され今後大幅な組織の見直しなど図られることが予想されます。そうした中、私たち臨床検査部門を取り巻く環境も益々厳しさを増し、質を重視した医療を保ちながら業務の効率化によるコスト削減（生産性の向上）が求められています。私たちは自施設の組織目標、特徴などを常に把握した上で自分の担う役割を考え、従来の検査業務にとらわれることなく施設が求めている機能に参画することのために必要なスキル・キャリアアップを自ら求めていく意識改革が大切ではないかと考えております。検査科の向上もさることながらまずは、職員一丸となって病院の向上を！！何はともあれ、前向きに気張らず出来ることからやっていきたいと思っています。

今年1年新潟地区会員共々、他地区会に劣らぬよう切磋琢磨していく所存ですのでご協力お願いいたします。

最後になりましたが、関信支部役員並びに会員の皆様のご多幸と益々のご活躍を祈念して新年の挨拶といたします。



長野地区会会長…………… 若 林 洋 志

新年明けましておめでとうございます。関信地区会員の皆様には新たな年を迎え謹んでお喜び申し上げます。

今年は独法化5年目を迎え、「再生プラン」が4月よりスタートし、長野地区におきましても中信松本病院と松本病院が一組織二病院の組織再編成が行われます。詳細等については未だはっきりした事が解らず人員配置等はどの様になるのか大変心配しております。県下のその他の施設におきましても資金計画等は厳しい内容であり目標達成には大変な努力が必要となります。

又、本年は診療報酬改正の年に当たり医師不足等の対策は反映されるようですが臨床検査関係については今のところ情報もなく増収は望めそうもありません。

新たに始まる業績評価や新統計への対応についても軌道に乗るまでは大変頭の痛める事ではないでしょうか。

長野地区会に於きましても昨年は人事交流や研修会を中心に活動して来ましたが本年も支部との連携と会員同士の情報交換を密にした活動を行いたいと考えています。

地区会理事も昨年のメンバーが多く残り、より細かな活動が出来ると思います。

昨年は地球温暖化の影響か夏場は猛暑が続き、秋の訪れは例年よりも1ヶ月位遅れました。冬は暖冬との予想ですが異常気象が当たり前の今日、突然、どか雪などあるかもしれません。ガソリンや灯油も大幅に値上がりして車で通勤し、暖房を灯油に依存している私にとっては大きな負担となっています。それに伴い食料品をはじめ諸物価の値上がりが更に家計に追い打ちをかけ、給与のベースアップも多く望めません。新年早々暗い話題になってしまいましたが本年は明るい話題が多い事を願っています。

会員の皆様のご多幸と益々のご活躍をお祈りして新年の挨拶とします。

山梨地区会会長…………… 川 畑 久

新年あけましておめでとうございます。

関信支部会員の皆様には、健やかに新たな年を迎えられたことと、お慶び申し上げます。

雪化粧をした霊峰富士・南アルプスの山々に囲まれた甲府より地区を代表して新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は大河ドラマ『風林火山』の影響で山梨県内は多くの観光客で賑わいました。この旗指物（軍旗）『風林火山』を掲げた武田信玄率いる二十四武将は戦国時代最強と言われました。信玄は二十四武将の長所短所を見極め適材適所に配置することにより効率的な戦略を可能とし、また騎馬隊を組織することによって機動力「其疾如風」を発揮させたそうです。

昨年と同様に検査部門において「其疾如風＝疾きこと風の如し」の機動力を実践し、業務改善・経営改善・ICTやNSTなど他部門との連携に力を入れ更なる改革を行い

また、個々のスキルアップに努力していきたいと考えています。検査科職員が「不動如山＝動かざること山（検査技師）の如し」などと言われたいように心していきたいと思います。

今年3月には第24回山梨県臨床検査技師学会の開催をNHO甲府病院・他5施設が担当することとなり他施設との協力を得ながら成功させるよう準備しているところであります。学会開催にあたり関信支部会員の皆様方のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方のご多幸と益々のご活躍をお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

東京・埼玉地区技師長会会長 上 原 信 夫

新年あけましておめでとうございます。

関信支部会員の皆様には、初春のお慶びを申し上げます。

さて、当会では梅雨が明け猛暑となった7月28日、国立国際医療センター国際協力局において、研修会と技師長会議を開催しました。教育講演には治験管理室事務局次長である久保田篤司先生、治験コーディネーターの和田裕美主任技師をお迎えして、『国際医療センター治験管理室の現状と臨床検査技師の役割』をテーマに、治験業務の実際と今後の展望等の詳細な解説、そして臨床検査技師の業務への参画について適切なアドバイスを頂くことができました。

会議では、各施設の経費節減及び検査収入の取組み報告や、奥田臨床検査専門職を交えて、業務効率の徹底、安全面の強化や検査の質向上に努めることなど話し合いました。

また、新しい議題として本会（東京都・埼玉県・山梨県）には、関信支部傘下の地区会が存在しないことから、専門職による伝達講習、意見交換会、さらに知識や技能を高める研修の機会を、本技師長会主催で設けることを決定しました。

この研修会は、10月27日、国立成育医療センターにおいて、講堂には160名を超える参加者が集い盛大に開催することができました。

なお、研修内容は、専門職からの『これからの臨床検査技師に求められるもの』、セミナーでは『二交替勤務態勢について』実施施設から四人の技師長をお迎えし、現況報告と説明、講義では『超音波検査の進め方』をテーマに腹部疾患のチェックポイント、心臓疾患のチェックポイントの2講演がありました。

最後に、我々の医療現場に目を向けますと厳しい変革も軌道にのり、やや光明が見えてきたかなという印象を受けます。

今後も検査分野の技術革新（イノベーション）を成し遂げ、医療の中で「進化し続ける臨床検査部門」であり続けるために、全力を尽くして参りましょう。

皆様の今年一年の御多幸と、益々のスキルアップを祈念しております。



NHO霞ヶ浦医療センター……岡 村 治

国臨協関信支部の皆様、新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えの事とお喜び申し上げます。

昨年、私の抱負は「超音波検査士（消化器領域）を取得する」でした。一年前の今頃は切羽詰った状況でしたが、超音波検査士を目指す仲間や先輩の激励で何とか達成することができました。しかし、その後の自分を振り返ると決して意欲的ではなかったと反省しています。そこで今年の抱負は、「今までに取得した資格のさらなるスキルアップを目指す」で行きたいと思います。具体的にはセミナーや学会に積極的に参加し、新しい知識や技術を身につけ日常検査に反映する。そして、微力ながらこれから超音波検査士の資格を習得しようとする若い技師に指導ができる環境を創りたいと考えています。

また、去年はありがたいことに一日も寝込むほど具合が悪くなることはありませんでした。しかし、社会人になって以来、継続した運動をしていないため年々身体の衰えを感じます。そんな中年の自分を真摯にとらえ、今年はしっかりと健康管理をしたいと思います。具体的には、一日20分の運動（ストレッチ、散歩、走る、踊る?!）をする。現在は単身赴任なので健康を第一に考え、あまりハードルを高くせず継続することを目指します。そして今年の終わりに読んでも恥ずかしくないよう頑張りたいと思います。

最後に会員の皆様のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げますとともに、今後とも指導、ご鞭撻の程宜しくお願い致します。



NHO宇都宮病院 ……………永 井 栄 子

新年明けましておめでとうございます。国臨協関信支部の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

一昨年の4月より宇都宮病院に採用になり、生理機能検

査を担当させて頂くようになってから、あと3ヶ月ほどで丸2年が経ちます。専門学校を卒業したばかりの、まだまだ臨床検査の右も左も分からない（今では、やっと右と左の区別？はつくようになりました）私にとって、最初の1年は新しい環境での業務に慣れるので精一杯でした。幸い、検査室の諸先輩方や病院スタッフの方々のご指導ご協力もあり、2年目では業務に少しずつ慣れる事が出来、2級認定臨床検査士（循環生理）の資格を得ることが出来ました。業務終了後に、心エコーの練習にご協力頂いた先輩技師や、ご指導下さった生理検査主任には、心より感謝致しております。しかし業務に慣れてきた反面、自身の知識不足、未熟な技術を目の当たりにすることが多く、悔しくて歯がゆい思いもたくさんしました。

今年の4月からは、私も「3年目」の臨床検査技師になります。「3年目の〇〇くらい…」と歌われているように？「3」という数字のつく期間、「3日」「3週間」「3ヶ月」「3年」…などは「節目」の時であり、また気も緩みやすいと言います。

私には、まだまだ学ばなければならないことがたくさんあります。「知識が足りない、技術が足りない」と落ち込んでいる暇があったら、まず出来ることから少しずつでも勉強なさい。「足りない」という状態は、これからどんどん吸収出来る余地があるということだと、就職したばかりの頃、先輩から言われた言葉を思い出しました。

3年目を迎えるにあたってもう一度初心に還り、知らなかったことを理解できた時の驚き、出来なかったことが出来るようになった時の喜びの気持ちを忘れずに、探求心を持って日々の業務に向かいたいと思います。

最後になりましたが、皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。本年もご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



NHO高崎病院 ……………熊 谷 豊

新年明けましておめでとうございます。

昨年を振り返ってみると、内閣総理大臣に我が群馬県高崎市出身の福田康夫氏が就任しました。群馬県からは、福田総理を含め四人目であり、親子での総理大臣も初めてです。その福田総理を迎えて、我が高崎病院の新病院建設が昨年七月に起工式を行い、基礎工事、免責工事を行っています。2010年秋完成予定ですがまだ新病院のイメージには程遠く、職場から見える工事風景は黙々と働くクレーン車とダンプの出入りのみです。プライベートでは、子供の付き添いで始めた空手も一年が過ぎ、子供達に負けまいと頑張っていますが、何せ身体がいうことをききません。山ごもりでもして修行を行い、心身ともに鍛えなおそうかと真剣に考えていますが、修行をあけて下山し熊と間違われて打たれかねませんので…。しかし昨年11月に行われた小さな大会の組み手の部（少年の部？）で優勝いたしました。試合の途

中、もう棄権しようと何度も思いましたが、子供達の熱い声援のおかげで最後まで頑張ることが出来ました。今年も怪我だけはしないよう程々にとっています。本業については、昨年超音波検査士の試験に何とか合格しましたが、その後の難しさを実感した一年でした、本年は少しでもレベルアップが図れるよう日々精進し、今年も公私共に充実した一年にしたいと思います



NHO千葉医療センター ……鳥 海 洋

関信支部会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。

さて、昔から「一年の計は元旦にあり」と言われますが皆様は一年の目標を元旦に立てていますか？なかなか目標を立てるのは難しくはないでしょうか？どうしても曖昧な目標になりがちな私は実現しているものを探すのが大変です。（"ない"と言い切れてしまいそうです）

どうして実現できないのか、それはやはり目標や計画が曖昧だからだと思います。自分が何をしたいのか具体的な目標を立てたら、それを達成するための能力や経験が今の自分にあるのか分析をして、無ければそれを補う為の計画も立てなければいけません。あとはそれをどれだけ実行出来るかにかかっています。理屈では分かっているがなかなか行動を起こす事が出来ないのが現状です。

やはり一番目標が明確に出来るのは資格取得だと思います。各資格によって様々な受験条件がある中で自分にとって最適なものは何か？自分とその周りの状況、置かれている立場、これもよく分析することだと思います。

最後に、新年の抱負というよりも抱負を立てる為の抱負になってしまいましたが、のんびり屋の私はこの調子でまた1年が過ぎてしまわないように"もう明日はない"位の覚悟で、たまには突っ走っていききたいと思います。



NHO久里浜アルコール症センター …甲 斐 明 子

新年明けましておめでとうございます。国臨協関信支部会員の皆様方には穏やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

「国家試験に合格して臨床検査技師になる」と目標に掲げた2005年の元旦。あれから瞬間に時は過ぎ、早いもので気がつけば就職してもう3年目を迎えてしまいました。久里浜アルコール症センターに就職した当初はアルコールという特殊な分野に戸惑いもありましたが、技師長を始め個性豊かな先輩方に囲まれ、今ではすっかり久里浜色に馴染んでいます。この長閑な環境にあって、時に何を目標にすべきか見失いそうになり、努力を怠ることもありました。3月には超音波研修に参加させて頂く機会を得ることが出来、どこか遠くにあった『認定技師』という文字が目指すべき

目標としてハッキリとした形になってきた様に感じます。また、私生活では大学で専攻していた中国語を生かして、8月に行われる北京オリンピックのガイドボランティアのサポートメンバーとして、陰ながらではありますが参加することになりました。図らずとも公私共に、今まで足踏みしていた状態から実際に一步を踏み出す年になりそうです。

余談ではありますが、中国『漢書』の律曆志によると十二支は生命創造の一巡に模され、「子」（孳）は種子に新しい生命が萌し始めることを表す初点とされています。「今年は子年、まさに何かを始めるには最善の年のハズ！」と、ちょっぴり弛んだこの気持ちを奮い立たせて、目の前にある目標をしっかりと捉えていきたいと思います。

最後に会員の皆様より一層のご発展とご多幸をお祈りしますとともに、これからもご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い致します。



NHO新潟病院 ……海 原 桂 一

明けましておめでとうございます。

昨年は参院選で自民大敗、安倍内閣退陣、亀田騒動、郵政民営化、犯罪サイトの横行、防衛省疑惑、年金問題、食品関係企業の賞味期限切れ偽装事件、原油価格の高騰……などいろいろな事がありました。

新潟病院に赴任して3ヶ月が過ぎた頃、柏崎を中心に襲った中越沖地震が一番印象に残っています。

3年前の秋に発生した中越地震は、小千谷市・川口町付近を震源とするマグニチュード6.8、震源の深さ13キロの直下型でした。

一方今回の中越沖地震はマグニチュード6.8、震源は上中越沖、震源の深さは17キロでした。

中越地震があったばかりなので当分、地震はこないだろうと思っていました。

地震は何の前触れもなく突然襲い、一瞬にして人命や財産を奪います。

復旧にも時間がかかり、精神的なダメージは計り知れなく本当に恐ろしいと思います。

"災害は忘れた頃やってくる"と言いますが普段から危機管理を含めた対応に心がけようと思います。

幸い検査科は多大な影響もなく機能することができました。国臨協の皆様にはご協力・ご支援を戴き誠に感謝申し上げます。

昨年はスキルアップ研修や院内感染対策研修に参加し今後に生かしていきたいと思います。

今年の目標は、医療に貢献するため周りとのコミュニケーションを大切にチーム医療に貢献できるようもっと幅広い分野にもスキルアップ向上に努力していきたいと思います。今年はずっと良い年でありますように……

国臨協関信支部のますますのご発展と皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。



NHO松本病院 ……………品 澤 美 樹

新年明けましておめでとうございます。元号が昭和から平成に変わり早くも今年で20年目を迎えました。平成元年に生まれた子がもうハタチ。それを思うと月日の流れの早さを改めて実感します。

独立行政法人化がスタートし今年で5年目を迎え、大きく変化してきましたが、今年の4月から松本病院と中信松本病院が一組織二病院体制となり、また新たなスタートの年となります。そのための準備が着々と進んでおり、検査科もその変化に対応すべく、一人一人がより良い検査科を目指して意見を出し合い、実行し毎日取り組んでいます。信頼されかつ迅速で円滑な検査を行うため、業務改善や業務拡大など未だ問題は多いですが、その上で個人のスキルアップもとても重要なことだと思います。今年は私個人としても、もう試験は目前まで迫ってきていますが、超音波検査士の資格取得のために頑張っていきたいと思います。

最近、目標になる言葉を耳にしました。貧困の国で援助活動をしている日本人の女性の言葉です。「世界には恵まれず苦しんでいる人たちが大勢います。そんな人々をただテレビなどで見て同情し涙を流すだけでは誰も救われません。同情する気持ちがあるのであれば、その人々を救う為に少しでも何か自分ができることをしてください。」と。確かにその通りだと思いました。ただ思うだけでは何も前に進みません。頭で思っている、それを少しでも実行に移してこそ意味があるのです。この言葉は仕事にも十分生かせるものだと思います。今年のもう一つの目標として「思うだけでなく実行すること」という言葉を常に頭に入れて過ごしていきたいです。

一年を振り返ったときに、今年は目標を達成できたと思えるような充実した一年を送りたいと思います。関信支部の皆様におかれましても、幸多き一年となりますよう心からお祈り申し上げます。



NHO甲府病院 ……………斉 木 克 央

新年明けましておめでとうございます。皆様お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

私、地元の山梨に戻り早4年になりました。この間、甲府病院は西甲府病院と統合し山梨県で唯一の国立病院機構の施設になりました。甲府病院は、四方を山に囲まれた甲府盆地の北部に位置し、窓からはひととき高くそびえ立つ霊峰富士を望み、春には桃の花で甲府盆地が染められ、夏には桃やぶどうが実り、秋には紅葉が山々を染め、また冬には雪化粧した南アルプスが冬の訪れを知らせ、春夏秋冬違った風景を演出する風光明媚な環境の中、業務を行っております。

昨年は、採用以来携わってきました細菌検査から生理検

査に配置換えとなり、検体部門から生体検査部門という新たな環境に変わり、新しく習得する知識、技術も多く悪戦苦闘する毎日でした。検体部門を主に携わってきた私にとって、検査の対象が検体から人となり、患者様に対する接遇の重要さを改めて実感した一年でもありました。このごろは、業務にも慣れてまいりましたので、今年は「挑戦」の年にしたいと思い、昨年より本格的に始めました超音波検査士の認定試験に向けて精進しております。

最近、医療を取り巻く環境はますます厳しくなる現状の中、精度管理されたデーターの提供を行うため、更なる技術のスキルアップが重要な課題であると思います。その為、困難も多いと思いますが、一步一步着実にまた新しいことに挑戦することが明日を切り開いていくことだと信じ頑張りたいと思います。

最後に、皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。



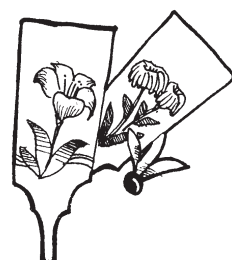
NHO東京医療センター ……国 仲 伸 男

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、穏やかな新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。今年は十二支のなかでも最初の子年です。後世の話しではありますが、牛に乗って神様のいる門の前で飛び降りたことで一番になったとか。なかなか知能的ですね。

昨年は、安倍首相の突然の辞任、原油価格の高騰やサブプライム問題など政治・経済ともに大きく変動した一年でした。今年は安定した穏やかな年になって欲しいものです。また、私達を取り囲む環境においては、個人の業績評価や再生プラン、非国家公務員化などこれまでになかった厳しい現実が待ち受けています。私自身も「今までのようではいけない！」と感じつつも、なかなか尻に火がつかない状況です。業績評価は個人の努力が必要ですが同じ組織のスタッフの方々と一丸となって取組んでいけば、これから色々出てくる諸問題も乗り越えられそうだと思います。他力本願かもしれませんが、明るい話題が少ない状況下では、特に感じます。月並みではありますが、自己研鑽を怠らず地道に一つ一つの問題に取り組んで行こうと考えていますので、今年もどうぞよろしくお願い致します。

最後になりますが、会員の皆様のご健康とご活躍を祈念致します。



..... 研 修 会 に 参 加 し て

「医療事故とリスクマネジメント」 「臨床検査経営管理統計」 に関する研修会に参加して

NHO相模原病院 日 吾 雅 宜

平成19年10月13日（土）国立病院機構本部にて支部主催研修会が開催されました。技師長、副技師長、主任技師を対象に遠方施設の参加も多数あり、総勢159名の参加者が集まりました。これは、今回の研修テーマが病院運営において如何に重要であるかを会員の皆様が認識している結果と考えます。

「医療事故とリスクマネジメントについて」は、獨協医科大学 日光医療センター 臨床検査技師長 高橋和男先生にご講義いただきました。臨床検査は昔の手法から現在の自動分析法へと変遷し、装置の保守、試薬管理・変更、測定時の精度などが重要な因子となってきています。臨床検査は病気の早期診断・治療に不可欠であり重要度は増してきています。このような状況の中、私たち臨床検査技師は検査の品質保証、精度保証を行う責任があります。

これらの保証を高次元で達成するには「標準作業書（マニ

アル）」の整備が基本です。この「標準作業書」からはずれたものは大小を問わずすべてイレギュラーであり、インシデントであるとの認識が必要です。これがリスクマネジメントであり、医療事故を防止することにつながるのです。日常業務で決められたこと以外を行ったり、あるいは起きてしまった場合の原因究明や対処法の適否がリスクマネジメントの本質です。このお話を拝聴し、普段何も問題なく結果を報告できていることの重要性、そして問題が生じた場合の対処法の重要性を再認識する必要性を感じました。

「臨床検査経営管理統計について」は、NHO松江病院 臨床検査技師長 中国四国ブロック（前）臨床検査専門職 辰島純二先生にご講義いただきました。これは私たちの検査科（部）が「今の評価のされ方で満足なのか？」「今後もこれでいいのか？」との観点から、「正当な評価」を受けるためには正確で客観的に仕事量を伝えることができる統計が必要であるとの認識から「臨床検査経営管理統計（案）」が策定されました。会員から寄せられた質問に対する疑義照会回答集も配布していただきました。各施設の意見を聞きながら完成させて行きたいとのことでした。私たちの意見を積極的に寄せて「正当な評価」を受けるための「仕事量統計」を作り上げる努力が今求められていると感じました。

細胞診研修会に参加して

国立がんセンター東病院 柳 進 也



平成19年10月6日（土）NHO国立がんセンター中央病院において、国臨協関信支部主催の細胞検査士認定試験対策セミナーが開催されました。

講師として都立大塚病院の浅見英一先生をお迎えし、講義をしていただきました。

講義の内容としては、試験形式にスライド問題を部門別に婦人科、呼吸器、消化器、体腔液、泌尿器、その他で計80問を1問1分間で問題を投影、回答していき回答終了後に代表的な細胞像についての特徴、注意点などを解説していただきました。

私自身、病理検査に携わりまだ間もないため、経験、知識

共に乏しく細胞検査士認定試験を受験するにはまだ到底早いであろうと思っていました。

しかし、今回のセミナーに参加させていただき、自分の足りない所を再認識した事により試験に向けての課題を見つける事ができました。また数多くの症例を目にしたことと、浅見先生のわかり易い丁寧な講義のおかげで、多少ですが自信を持つことができました。

これから試験までもう間もないですが、試験に対するモチベーションを高めることができ、また今回の講義により自分の問題に対する考え方の幅を広げることができたのではないかと思います。残り少ない期間一杯努力したいと思います。

最後に、今回セミナーを開催して下さった関信支部の役員の皆様、お忙しい中講義して下さった浅見英一先生に深くお礼を申し上げたいと思います。

微生物研修会に参加して

NHO霞ヶ浦医療センター 原 田 哲 也



平成19年11月17日、東京医療センターにおいて関部信支部主催の微生物研修会が開催されました。今回の研修会には2つの目的があって参加しました。1つは以前に今回の講師である順天堂大学病院の中村文子先生の研修会に参加したことがあり、とても勉強になったので講義を受けたいと思ったこと。2つ目は研修内容が検査科の運営に係ることだったので、細菌検査の現状と今後の方向性を知りたいと思ったことです。

研修内容は「生き残りをかけた微生物検査室 ～質と信頼を守るために～」という題で、実際に順天堂大学病院に外注化の波が押し寄せた時にどう乗り越えたかという実例を交え、微生物検査室が今後どのように変わるべきかという内容でした。現在の微生物検査室が抱える問題として、1. 保険点数の低下 2. 技師の技術面の低下 3. 感染症医不足等の運営面の問題 4. 易感染患者増加、多彩な起因菌など診療面の問題などが挙げられました。10年前に比べ約半分になった保険点数や、細菌検査試薬のキット化への過度の依存が、技術を低下させていることを聞き現状の厳しさを目の当たりにしました。

これらの問題を打破するために順天堂大学病院が実施したことは技術面、財政面、業務面の3つの見直しを行い、検査の「効率化」を図るということでした。例えば、検査費用と保険点数との解離を把握しコスト意識を向上させること。分

離培地、検査項目の選択を行い検査のスリム化をすること。塗抹検査成績から医師とのコミュニケーションを図り無駄な検査を省略することなど、具体的な内容で分かりやすくとても勉強になりました。自分も資格取得や学会発表を行い、この改善を支えている高い技術の習得に努めたいと思います。そして「早い・安い・うまい」＝迅速で無駄のない良質の検査を実現したいと感じました。

総括として検査室全員が同じ方向を向き、各施設で何を取り入れるのではなく、何を考え、何が出来るといえるかが大事であるとお話をいただきました。その中でも、「国立病院機構は各施設が支店である国内最大の病院である。その病院はトップレベルであるべきだ」という言葉に責任とやりがいを感じました。これからは微生物検査室に限らず検査室全体の地位と信頼を向上させるために邁進したいと思います。

最後に講師の中村文子先生ならびに研修会を主催していただいた関信支部役員の皆様に深く感謝致します。



お知らせ**学術部より****● 第3回関信支部主催研修会 ●**

日 時：平成20年1月12日(土) 10:00～16:30(昼休憩 1 時間)

場 所：NHO東京医療センター 1 階病棟会議室

講 師：〈臨床10:00～12:00〉

佐藤 俊行 主任技師 (NHO東京医療センター)

〈基礎13:00～16:30〉

斎藤 雅博 先生 (持田シーメンスメディカルシステム)

内 容：超音波検査士認定試験対策 (臨床と基礎)

※現在勉強中の方、興味のある方、また、もう一度復習したいという方など多数ご参加下さい。

● 症例検討会の症例公募 ●

症例検討会の症例呈示施設を公募します。

平成20年5月に症例検討会を予定しています。

症例を呈示していただける施設は下記へご連絡下さい。

尚、症例は発表、未発表は問いません。また、ジャンル等も一切問いません。

応募の締め切りは平成20年2月8日(金)とさせていただきます。

連絡先 〒277-8577 千葉県柏市柏の葉6-5-1
国立がんセンター東病院臨床検査部

学術担当理事 川村 公彦 宛

TEL 04-7133-1111 内2385

E-mail kmkawamu@east.ncc.go.jp

人 / 事 / 異 / 動

平成19年10月 1 日付 採用者

氏 名	施 設	役職名
伊 藤 慧	国際医療	技師 (非常勤)

平成19年10月31日付 辞職者

氏 名	施 設	役職名
牧 野 雅 司	甲府病院	技師

4月19日(土)
平成19年度退職会員を囲む
合同交流会

場所：東京ガーデンパレス
多数の皆様のご参加をお待ちしております！

地 区 会 便 り

山梨地区会勉強会

NHO甲府病院 神宮司 深 雪

甲府病院は、山梨県唯一のNHO病院です。そのため地区会が無く、他のNHO施設との交流も有りません。そこで今回、このような現状を憂慮された奥田専門職のご好意により8月24日（金）17：30からNHO甲府病院研究検査科において勉強会を行って頂きました。

勉強会では奥田専門職より臨床検査技師を取り巻く現状と今後の展望について、我々臨床検査技師は、医療の質的向上、医療安全の為に常に自己研鑽に励み、研修など積極的に参加し、各種認定資格取得に取り組んでいかねばならない、この事は個人のスキアップのために与えられた大きなチャンスであると同時に、組織に課せられた大きな課題である、このため国臨協も時代の要請を見据えた勉強会の開催を行っているとのお話がありました。

また、医療に携わる他職種との連携を計り、診療支援参画に応えるために誠心誠意取り組み、さらなる経営改善の遂行による経営基盤の健全化に貢献することが求められているとのことでした。

その中で、厳しい現状の中においても自分を陰で支えてくれる周囲の人々に感謝の気持ちを忘れず、お互いを思いやる心を持ち続けながら、自己の役割を自覚して業務に取り組む事が大切であるというお話が印象に残りました。

私は今年4月より勤務し始めましたので少々内容が難しく、また職務の重さを痛感した勉強会でした。

今後 一日も早く今回の内容を理解出来るよう一生懸命職務に励んでいきたいと思えます。

最後にはるばるNHO甲府病院まで来て頂きました奥田専門職に感謝いたします。



群馬地区会学術講演会を開催して

NHO沼田病院 古 江 裕 志

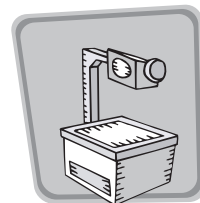
10月20日（土）にNHO沼田病院にて群馬地区会の学術講演会を開催しました。今年は、実技の内容ではなく全ての会員が参加できる意見交換（討論形式）を中心とした学術講演会としました。

近年県内でも輸血業務の一元化が進み沼田病院でも施設側の要望により薬剤科からの輸血業務移行の依頼を受け検討しております。このことから講演会のテーマを「各施設の輸血業務と業務の一元化」とし、群馬県赤十字血液センターの蒔田亜希子先生を講師として「輸血新法に伴う血液製剤の適正使用の変化と輸血業務一元化を検査科で行なうその意義等」についてお話して頂きました。

その後、講師の方も参加して頂き、各施設代表者による発表を行ないました。職員5人での輸血業務一元化を検討している沼田病院の現状や、既に一元化を実施している高崎病院の現状と採用している輸血業務支援システムの運用状況について、T&S採用による業務改善を行なう西群馬病院の取り組み、栗生楽泉園での輸血業務状況などを発表して頂きました。

これらの報告を元に意見交換会を行ないました。活発な意見がでましたが、施設発表に時間を取られてしまい時間切れとなってしまったのがとても残念でした。今回発表して頂いた各施設の意見や講師の先生のお話を今後の輸血業務一括管理体制構築への参考にさせて頂きたいと考えています。

学術講演会後は、「花萌」にて昼食会を開き会員の親睦を深め楽しい一時を過ごしました。忙しい業務の中、施設代表として発表・資料作り等をして頂いた会員の皆様方、有難うございました。



編集後記

新年明けましておめでとうございます。

今年は平成になって20年、また、十二支の始まりという節目の年でもあります。なにものをも、きびしく美しくおおいつくす雪は、春には田畑を潤す水となります。凍てつく雪も、実は幸（ユキ）なのかもしれません。日々の努力が、豊かな稔りにつながることを祈りつつ。

記：広報部・深澤

地区会便り

東京・埼玉・山梨地区臨床検査技師長会主催臨床検査研修会に参加して

国立がんセンター中央病院

益 田 泰 蔵

平成19年10月27日（土）に東京・埼玉・山梨地区臨床検査技師長会主催臨床検査研修会が国立成育医療センターにおいて開催されました。当日は台風の接近に伴い、開始時間の13時には暴風雨だったにも関わらず、160名を越える参加者があり、大変充実した研修会となりました。

研修会は東京・埼玉・山梨地区臨床検査技師長会上原会長の挨拶に始まり、下記の内容で行われました。

1. 開会挨拶

東京・埼玉・山梨地区臨床検査技師長会 上原会長
国立病院臨床検査技師協会 三浦関信支部長

2. 連絡事項および講話

『これからの臨床検査技師に求められるもの』

独立行政法人国立病院機構

統括部医療課 奥田臨床検査専門職

3. セミナー

『二交替勤務体制について』 司会：原田副会長

- 1) NHO災害医療センターの現状 宮崎臨床検査技師長
- 2) NHO高崎病院の現状 …… 霜田臨床検査技師長
- 3) NHO横浜医療センターの現状 並木臨床検査技師長
- 4) NHO水戸医療センターの現状 堀口臨床検査技師長

4. 講義

『超音波検査の進め方』 司会：岩下臨床検査技師長

- 1) 腹部疾患のチェックポイント
国立がんセンター中央病院 武山主任技師
- 2) 心臓疾患のチェックポイント
NHO西群馬病院 中島副臨床検査技師長
- 3) 質疑応答

5. 閉会挨拶

東京・埼玉・山梨地区臨床検査技師長会 吉田理事

6. 懇親会

奥田臨床検査専門職からは 1)平成18年度「日本医師会主催精度管理調査結果について」 2)平成19年度関信ブロック登録選考試験について 3)人事異動について 4)スキルアップへの取り組み等について 5)人材育成への取り組みについて 6) 臨床検査技師に求められる「医療連携」とは？ 7) 臨床検査部門からの「医療情報発信」について

と大変沢山のそして最新の情報をお話いただきました。特に、診療部門との医療連携については、我々現場の検査技師が真剣に取り組む課題と認識を新たにしました。

セミナーは『二交替勤務体制について』をテーマに、現在二交替勤務制を導入している施設より、法的な解釈、問題点や勤務体制の複雑さなどをお話いただきました。各施設の勤務表の細かさには驚かされました。また、各施設が抱えている同じような問題点や施設ならではの問題点などを聞き二交替勤務体制の大変さについて理解を深めることができました。

講義では『超音波検査の進め方』として、腹部疾患と心臓疾患について講義をしていただきました。多くの超音波画像を用いながら解説していただき、業務で超音波を行っていない方々にもわかりやすく講義をしていただきました。また、最新の学術的知見や超音波検査の操作方法など大変参考になりました。

閉会後には、12階のレストランにおいて懇親会が行われ、サンドイッチやケーキを食べながら他の施設の方々と親睦を図ることができました。施設紹介では施設の現状を、思考を凝らしながら報告がされました。また、以前のビアパーティーを思い起こさせる紹介風景もあり楽しい懇親会となりました。

関信管内には1都9県ありますが、地区会としては7地区会が活動しています。各地区会は毎年総会・研修会・懇親会等を開催しております。研修会では専門職や講師の先生方を迎えてそのときの最新の情報をお話していただける機会があり、その情報を基に懇親会で親睦を深めていると伺います。しかし、東京、埼玉、山梨は地区会がなく、その機会がありませんでした。今回初めての試みとして臨床検査研修会が行われましたが今年もこのような会が行われ、また継続的に行われることを希望しています。

最後に、今回の臨床検査研修会を企画して頂いた東京・埼玉・山梨地区臨床検査技師長会、奥田臨床検査専門職、講演をいただきました諸先生方に感謝申し上げます。また、今回の準備・運営を行っていただきました上原会長、国立成育医療センターのスタッフの方々に御礼申し上げます。



講演風景



後姿がみんな真剣



懇親会にて